

四国圏広域地方計画 公表用資料について

令和8年5月13日

四国圏広域地方計画推進室

【公表用資料について】

○資料 3. 四国圏広域地方計画の本文の巻末に、「若者との意見交換コラム」と「シンボルマークの説明」を追加し公表用資料とします。

○公表用資料は、四国地方整備局の四国圏広域地方計画ホームページにて、公表する予定です。

若者との意見交換 コラム

「若者との意見交換」実施について

四国圏広域地方計画の策定に並行して、四国圏における「若者との意見交換」と称して、四国圏の若者に本計画のことを知っていただき、興味を持っていただくとともに、四国圏の将来について考えるきっかけづくりを主な目的として実施した。

令和4年度から7年度にかけて、四国圏内の4県5大学の学生を対象に計5回の意見交換を、安全安心な暮らし、持続可能な地域社会など、回ごとにテーマを変えながら実施した。

意見交換については3時間程度の短時間で行い、意見交換の場でも出された代表的な意見は、開催場所・テーマごとにコラムとして取りまとめている。

コラム 目次

- 安全安心な四国に向けて
- 今後の環境配慮について思うこと
- 住み続けたい四国とするために求めること
- 観光資源を活かした中山間地域の持続可能性を考える
- 中山間地域の持続可能な暮らしについて考える

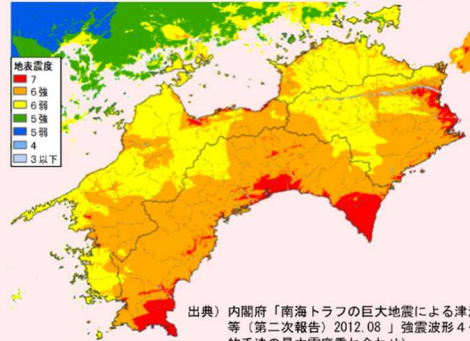
● 若者からの意見 ●

コラム

安全安心な四国に向けて

四国圏全域において甚大な被害が想定される南海トラフ地震に対し、住み続けられる四国とするために自身ができること、必要な防災・減災対策や復興の取組等について議論しました。

南海トラフ地震で想定される震度分布図（最大値）



開催概要

テーマ

四国の安全安心な暮らし
～今や今後も見据えて、四国の災害リスクへ
対応するために取り組むべきこと～

開催日 2024年11月20日(水)

参加者 高知大学の学生 計8名

主な意見

- 普段の生活に潜む災害リスクとして、外出時や複合災害が発生した時の避難の方法が分からないという不安がある。緊急時でもすぐに避難できる施設が分かるように、避難施設におけるステッカーの掲載、観光マップやマップアプリにおける避難施設の記載等の対策や普段からの防災意識を高める意識啓発が必要である。
- 防災意識の普及には、ゆるキャラやインフルエンサーを活用した呼びかけや小中高校での防災体験学習のカリキュラム化が考えられる。
- 被災後の復興の視点では、災害に強いまちづくりを行うために事前に被災後のまちの姿を検討することが重要である。また、従来の居住者に復興後も住み続けてもらう、または戻ってきてもらうためには、経済面でのサポートが求められる。

意見交換会の様子



若者からの意見

コラム 今後の環境配慮について思うこと

四国電力西条発電所での施設見学・講義を踏まえて、四国の地場産業の更なる発展、環境に配慮した社会に向けて、自身ができることや目指すべき社会のあり方等について議論しました。



※R4年度
出典) 環境省 都道府県別・部門別CO₂排出量の現況推計

開催概要

テーマ

フィールドワークを踏まえて、10年、20年、30年後のエネルギー産業や自分たちの仕事を妄想する

開催日 2024年2月16日(金)

参加者 愛媛大学の学生 計8名

施設見学の様子



主な意見

- エネルギー産業の発展に向けて、まずCO₂排出量の削減を自分事として捉え、消費電力の削減等の身近なことから取り組むべきだと感じた。
- 環境に配慮したライフスタイルとして、公共交通機関の利用や、電気自動車への切り替えが考えられ、自然と共生できる社会の形成が重要だと思う。
- 将来は地元・四国に残り、地域に還元できるような地域課題の解決に関わる仕事がしたい。

意見交換会の様子



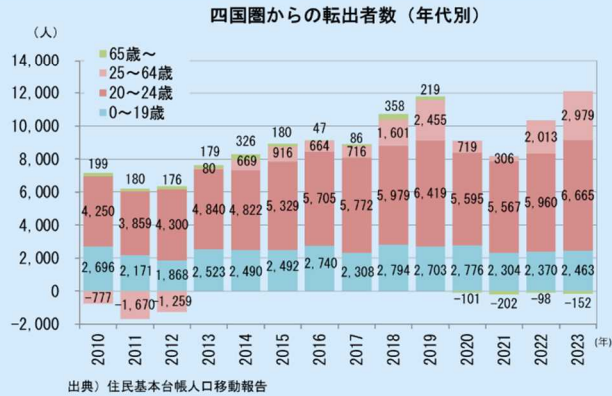
● 若者からの意見 ●



コラム

住み続けたい四国とする
ために求めること

若者の四国に対するイメージや暮らしに対して求めるものを把握し、今後、四国に住み続けたいと思われる四国とするために必要な取組について議論しました。



★ 開催概要

テーマ

四国で豊かに住み続けるには
～10年、20年、30年後を見据えて～

開催日 2022年12月12日(月)

参加者 四国大学の学生 計6名

★ 主な意見

- 四国の魅力としては、海、山、星といった自然が美しく、四季折々の自然を楽しむことや近所の人との距離が近く、人とのつながりができやすいこと等があげられる。
- 移動が不便であり、車がないと移動ができないことから、公共交通機関の利便性向上が重要である。
- 県外への移動手段としては、新幹線の新設や利用しやすい夜行バスの運行が望ましい。県内移動としては、路線バスや電車の運行本数増加により、各地へのアクセス性の向上が望まれる。
- 若者が遊ぶ場所が少ないため、市内以外の遊ぶ場所(映画館やテーマパーク等)の整備のほか、生活サービスとしてスーパーやショッピングモールの充実が求められる。

意見交換会の様子



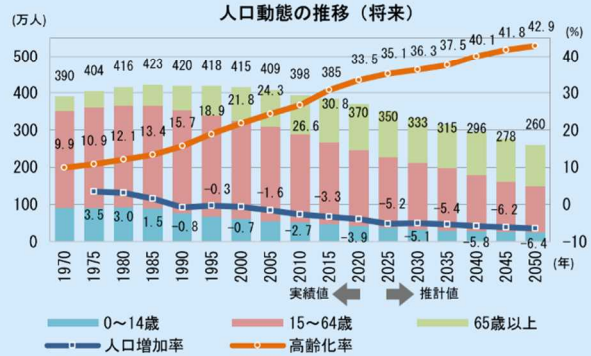
● 若者からの意見 ●



コラム

観光資源を活かした
中山間地域の持続可能性を考える

四国の中心部に位置する中山間地域として発展してきた徳島県三好市を題材に、生産年齢人口を維持することで今の暮らしを守り、持続可能な地域社会を目指すために必要な取組について議論しました。



★ 開催概要

テーマ

徳島県三好市を持続可能な地域社会とするには

開催日 2025年10月15日(水)

参加者 徳島大学の学生 計49名

★ 主な意見

- 三好市の強みは自然環境や祖谷のかずら橋等といった観光資源になるため、それらを活かした観光産業の活性化が考えられる。観光業が活性化すると関係人口の増加や雇用の創出にもつながるのではないかと。
- 持続可能性に向けて観光や移住を促進するためには、認知度が低い状況の改善が必要であり、特に若者の関心を高めるため、SNSを利用した情報発信が求められる。
- 都心部から三好市への移住を考えた場合に、生活利便性は検討材料になるため、医療や子育て、教育、交通等の生活基盤を充実させ、安全安心に暮らせる環境と整えることが重要である。
- 市内に点在している空き家や耕作放棄地を移住者用の住居として利活用・転用することや、住民の交流拠点として活用することで地域コミュニティの維持を図ることも考えられる。

意見交換会の様子

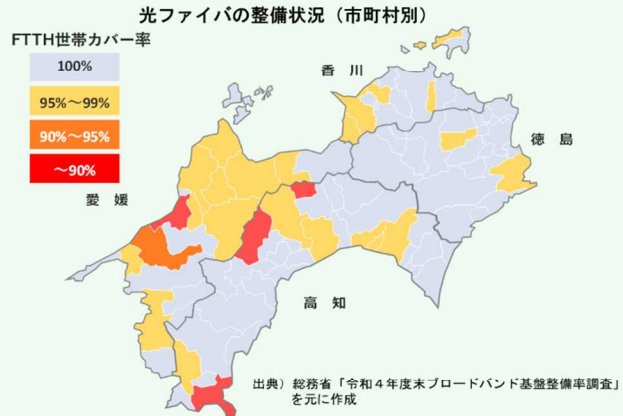


— 若者からの意見 —

コラム

中山間地域の持続可能な暮らしについて考える

中山間地域の魅力を活かした地域活性化に向けて、デジタル技術を活用した暮らし方や活性化方策について議論しました。



開催概要

テーマ

中山間地域の豊かな暮らし
～10年、20年、30年後を見据えて～

開催日 2023年3月7日(火)

参加者 香川大学の学生 計7名

主な意見

- 中山間地域においては、豊かな自然が多く、都心部と比較してゆっくりとした生活が送れるという強みを活かして、デジタルにふれない“自然とふれあう”体験による賑わいの創出、地域活性化が考えられるのではないかと。
- 地域イベント等により地域コミュニティの形成を進め、その後関係人口の拡大のために地元生活の体験(民宿、非日常体験)等で地域の魅力を発信することも考えられる。
- 病院やスーパーが近くにない等、生活サービスが不足するため、一家に一台デジタル機器を配布することで、オンライン診療による医療サービスやオンラインショッピングによる商業サービスをデジタルデバインドなく住民一人ひとりが受けられることが重要である。

意見交換会の様子



**【表紙】四国圏広域地方計画
シンボルマーク**



表紙のシンボルマークのイラストは、中央に人々が手を取り合う様子、その周囲にまち・自然・産業・ランドマークを配置することで、四国圏の恵まれた地域資源を生かしながら、あらゆる主体が連携してこれからの四国圏をつくり上げていくというイメージを込めている。